

第 21 回大阪大学野田村サテライトセミナー 「私たちは今何をしている野田！！？～私たちが学んだもの～」

2014 年 11 月 11 日、大阪大学未来共生イノベーター博士課程プログラムのもと開設された「大阪大学野田村サテライト」にて、「第 21 回大阪大学野田村サテライトセミナー」を開催しました。今回は、8 月上旬に大阪大学未来共生イノベーター博士プログラムの学生五人が野田村で行ったインタビュー調査の報告を行いました。発表者は、チェ（大阪大学未来共生イノベーター博士課程プログラム一年、以下同様）、仲田、小川、シェ、西山の五名でした。

今回のセミナーには、8 月にインタビューを受けてくださった方を中心に多くの方にお越しいただきました。また、今回も、遠隔教育システムを使用して、大阪大学吹田キャンパスと大阪大学豊中キャンパスをつなぎ、三地点同時中継でセミナーを行いました。

今回の発表者である大阪大学未来共生イノベーター博士課程プログラムの学生五名の自己紹介、八月のインタビュー調査の報告、そして野田村での経験を今後どのように活かしていきたいかという流れで今回のセミナーが進んでいきました。

彼らの出身や研究テーマはそれぞれバラバラで、それぞれの視点から野田村を見ようとしていました。例えば、チェさんは、食文化に興味を持ち、野田村を食文化からとらえていました。仲田さんは、伝統歌謡の継承という視点から、「音頭上げ」の話を伺い、村で生まれ育ったという感覚を得ることの大切さを感じたそうです。小川さんは、当初、野田村でこういったテーマでお話を伺っていくかを決められなかったそうです。しかし、野田村に来て野田村の方々のやさしさに触れるうちに、話を伺うこと自体に価値があるということに気付いたそうです。シェさんは、研究テーマが地域観光で、特に、観光政策と地域住民との関係について研究しているそうです。このような視点から野田村でインタビュー調査を行い、農村部と呼ばれる地域の価値を見出したそうです。また、震災ガイドについても自らの経験を教訓として、伝えることの素晴らしさを実感したと発表されました。西山さんは、野田村の伝統文化に興味を持ち、とくに「なもみ」について考えたそうです。素晴らしい伝統文化があるにもかかわらず、若い人がなかなか参加できていない現状に対して、参加するきっかけが作れればと話してくださいました。

発表者の五名が口をそろえて言ったのは、「野田村の方々のやさしさに触れることができた」というものでした。最初は不安だったインタビューも野田村のみなさんの協力のおかげで、実りあるものになり、これから各自の調査フィールドでもこの経験が活かされると感じたそうです。

報告の後は、会場にいらした野田村の方を交えて、意見交換会を開きました。会場にいらした皆様から、伝統文化の継承をめぐる当事者ならではの意見をいただいたり、野田村に学生が来る意味についてご意見いただいたりできました。中でも「よそ者」だからこそ、できることがあるという言葉に、学生一同は大変感激していました。学生はそれぞれ、これからどのような道を歩んでいこうとも、今回の野田村での経験を忘れず、ずっと野田村のみなさんと一緒だということを実感した様子でした。

セミナーでの熱気そのまま行われた懇親会では、さらに深く野田村での経験について語り合うことができました。第 21 回大阪大学野田村サテライトセミナー「私たちは今何をしている野田！！？～私たちが学んだもの～」も盛況にうちに無事終了しました。次回セミナーは、12 月 11 日に愛媛大学教授の松村先生を講師にお迎えして、同じく野田村サテライトで行う予定です。